

冬が来た

校長 城 美博

去る11月7日は立冬でした。足早に去っていった秋の名残を味わう暇もなく、寒さが身にしみる季節となりました。本格的な厳しい寒さはまだまだこれからですが、「冬」はやがて訪れる温かい春を前に、寒さに耐え、エネルギーを蓄える時期でもあると思います。その冬について、高村光太郎に「冬が来た」という詩があります。全文を以下に引きます。

雪で埋めろ
火事を起せ
しみ透れ つきぬけ
刃物のような冬が来た

僕に来い、僕に来い
僕は冬の力、冬は僕の餌食だ

冬よ

草木に背かれ、虫類に逃げられる冬が来た
人に嫌かられる冬、
きりきりともみ込むような冬が来た

公孫樹の木も箒になった
八つ手の白い花も消え

冬が来た

高村光太郎

◎道程◎より

冬の厳しい寒さは、私たちを縮こまらせ、行動力を奪うものでありますが、ここでの「冬」とは、私たちの周囲の、厳しく困難なことのイメージとして捉えられるのではないのでしょうか。私たちに次々と襲いかかる試練や、立ちふさがる壁を連想させるものだと思います。

ところで、高村光太郎はここで「冬よ 僕に来い」と言っています。さて、どういうことなのでしょう。詩人の心の中に何があるのかわかりませんが、私には、何らかの理由で、厳しいこと、困難なこと、過酷なこと、さらには危険なもの、凶暴なもの、不吉なものに、正面から立ち向かおうとしている、そういうものに向き合い、「来るなら来い」という闘志に満ちている人の姿が見えてきます。皆さんにはそのように見えませんか？そして、私たちに、そのようなものに立ち向かっていこうという気概はあるのでしょうか？

自分の身に、厳しいことや困難なことが迫ってきたとき、逃げずに立ち向かわなければならぬ、そういうことを、この詩は私に伝えているように思われてなりません。

さて、今の私の心の中に「冬よ 僕に来い」と言える力があるだろうか、「冬は僕の餌食だ」と言い放つふてぶてしさはあるだろうか、少し物騒な言葉さえも含んだ高村光太郎の詩を読みながら、そんなことを考えました。

校内マラソン大会

11月10日（水）、今までの人生の中でこんなに「雨雲レーダー」を見たことがあったらどうかというくらいスマホの画面を見続けました。早朝の空は星も出ていましたが、雨雲レーダーには冬型特有の筋状の雲、所によっては雷や雹が降る恐れもあるとの天気予報。先生方と相談し「規模を縮小しての実施」の判断をしました。第28回校内マラソン大会は男女同時スタート、距離も同じ6kmでの実施になりました。ゴール後の集計に多少時間がかかりましたが、大きな混乱もミスもなく、生徒一人ひとりが自分のペースを守りながら、1つでも前の順位へ、1秒でも早くゴールしようと必死になって取り組んでくれました。城校長先生も参加され、生徒と一緒に完走されました。早朝からの準備や後かたづけを手伝ってくれた運動部の諸君、ありがとうございます。また育友会の皆様の温かいご支援を頂きました、ありがとうございます。コロナ禍で、本来のコースでの実施が2年連続できていませんが、来年こそは通常の実施ができるよう願っています。（体育科）



芸術鑑賞会

10月28日（木）本校体育館にて、芸術鑑賞会が行われました。コロナ禍で3年生のみと1・2年生に分け、同じステージを2回実施していただきました。今年は昨年度に実施するはずであった「世界の口笛アンサンブル」演奏会を鑑賞しました。口笛演奏者の柴田晶子氏は3オクターブの音域を操り、何度か国際口笛コンクール総合優勝をされるなど、その実力は折り紙付きで、他にもテレビ・ラジオ出演やテレビCM・ドラマ等のBGM録音を手がけられるなど多方面で活躍されています。また、ピアノ伴奏者の飯田俊明氏も多彩なジャンルで活動をされており、当日は、生徒たちからその場で募集したいくつかの音を元に、即興で見事な曲を演奏されて、生徒たちの大きな反響を呼びました。3年生からは、「自分が知らない音楽の世界に出会うことができ、感動しました」とか「新たな音楽の在り方を知り、音楽の素晴らしさを感じることができました。受験が近づいているこの時期に久しぶりにリフレッシュできて受験を頑張ろうと思いました。」との感想が聞かれました。

（生徒会）



人生の達人セミナー

11月4日(木)、都立新宿高校講師の寺島 求^{もとむ}先生、ファシリテーターとして日賀優一氏をお招きし、人生の達人セミナーを開催しました。

以下は、生徒の感想文です。「今回の講話を聴いて、学力等の向上を目指すには一に計画を立案し、二に何が何でもそれを実行し、三にそれが全てできたか、できなかつたら何が問題であったか反省し、四にそれらを日々の生活の中で繰り返していくことが必要である」ということを学び、そして実感しました。私は一の計画立案と三の反省は実施できていますが、どうしても二・四の実行につながってませんでした。これからはそれらの失敗を反省し、新しい循環を作り、どんな行動も積極的に実施していきたいです。」(1年男子) 「“先のことを見通す人”が共通テストで高得点を取るという話を聞いて、一個一個のテストに向けての学習予定表はいつも作っているけれど、受験に向けて何をしていくのか、いつまでに具体的に何をするかはまだ全然決めていなかったの、これを機に決めようと思います。それから合格体験記の三人の一日の過ごし方を見て、私もああいう一日の流れを決めてそれ通りに生活すれば、ぐうたらして勉強をさぼることも少なくなるのではないかと思います。私の弱点は意志の弱さです。予定を立てても目標を立てても結局どこかでさぼってしまい、当初計画していたように進まないことがほとんどです。これからは先を見通して日々の生活を改め、周りのライバルたちに負けないように気合い入れて頑張ろうと思います。」(2年女子) (キャリア支援部)



課題研究フィールドワーク

11月18日(木)午後を利用して、理系・文系ともにフィールドワークに行きました。これは、「総合的な探究の時間」の一環として、行われました。理系の連携先は、「佐賀大学海洋エネルギー研究センター、医学部看護学科」、「長崎大学工学部、情報データ学部、医学部保健学科(作業療法)」、「長崎総合科学大学総合情報学部」、「海きさら」、「佐世保市役所環境政策課」、「長崎国際大学薬学部」、「京都大学」となっており、生徒は1つの連携先を選択し訪問しました。生徒は、実際の研究施設・研究設備に触れることで、日々の授業以上の刺激を得たと思います。この経験を少しでも活かして、進路選択に役立ててほしいと思います。

また、文系は「SASEBO 仕事人図鑑」の作成に向けてフィールドワークに行きました。生徒は、将来の希望学部ごとに4~5人の班を作り、様々な連携先に訪問しました。職業調べにとどまることなく、職業の方がどのような思いややりがいを感じられているのかを調査するように留意しています。実際にインタビューを経験して、様々な気づきがあったと思います。その気づきを今後はさらに調査・分析して学習を深めていきます。

今後は、理系・文系ともに年度末に予定している発表会に向けて、論文・発表資料作成に取り掛かります。(2年総探)



主な試合などの結果

<陸上部>

- 第76回国民体育大会(三重とこわか)出場 少年男子B100m 1年 中川穂泉
- 令和3年度長崎県高校総合体育大会駅伝競走大会 男子:16位 女子:9位



<男子バスケットボール部>

- 令和3年度佐世保地区高等学校新人体育大会バスケットボール競技 第3位

<女子弓道部>

- 令和3年度全国高等学校弓道競技選抜大会長崎県予選会 第2位



<書道部>

- 第66回長崎県美術展 書の部 入選 3年 浦川七海

<写真部>

- 令和3年度長崎県高等学校総合文化祭第17回写真展
 - 最優秀賞 2年 北村由依菜 作品名「懸(か)く」 (全国総文祭出場決定)
 - 優秀賞 2年 合原 絆 作品名「いつかこの場所で」 (九州総文祭出場決定)
 - 3年 馬込明花 作品名「Rainy Season」
 - 優良賞 1年 山下楓純 作品名「あの人はサッカー部」



◎その他

- 令和3年度長崎県高等学校新人体育大会体操競技 第3位 1年 坂本真菜
- 第25回ボランティア・スピリット・アワード
 - ボランティア・スピリット賞 3年 大曲陽菜
- 令和3年度長崎県高等学校総合文化祭図書部門第16回ライブラリーフェスティバル県北地区大会
 - 図書館広報紙コンクール部門 優秀賞



《12月の行事予定》

1	(水)	定期考査(～6日)
6	(月)	定期考査最終日・部室棟清掃
7	(火)	国内研修旅行(～10日 2年)
9	(木)	「地域の職業と取り組みを知ろう」(1年)
11	(土)	プレテスト②(三校合同・3年長崎国際大)(～12日西高)
13	(月)	三者面談(～17日 全学年)
16	(木)	性教育講話(1年)
18	(土)	県一斉(1・2年) プレテスト③(～20日 3年)
22	(水)	「EdTech 検証事業」公開授業
27	(月)	冬季講座(～28日)